

平成 23 年度介護等体験談
特別支援学校<茨木支援学校>

今回、2日間という短い時間の中で、正直もう少し時間があれば学び取ることがあっただろうと、とても思います。慣れることで終わってしまい、あっという間の2日間でした。

私が担当させてもらったのは小学部の7組の子どもたちでした。

元気のよいクラスで、重度の障害を持っている子どもも少なく、上手くコミュニケーションが取れ、子どもたちに学ぶことが数多くありました。

私がこの7組のメンバーと関わる中で、1番印象に残り考えさせられたのは「手話」の大切さと必要さです。私の話すことはみんな聞き取ってくれます。しかし、その返事をしたくても声に出せず、私をもっと手話を使えば、会話が出来たのだろうと、とても思いました。

授業を一緒に受けさせてもらった時、支援学校にはたくさんのグッズがありました。それは、多くがコミュニケーションのためのものであり、自分たちの想いを外に発信するためのものでした。よく、最近の子どもたちはコミュニケーション不足だと言われてきているけども、本当のコミュニケーションの大切さを、今回の支援学校の子どもたちや先生方に教わりました。

体験後、7組のみんなにお礼のお手紙を送りました。するとすぐに、みんなからもお手紙が送られてきて、そこには「〇〇せいせい、ありがとう」という文字がたくさんありました。少しはみんなとコミュニケーションが取れたかなとすごく嬉しかったです。今回の体験を自分の財産にしていきたいです。

以上